

著者紹介

藤井 光 (ふじい ひかる)

1980年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科准教授。北米文学、英語文学。著書に『ターミナルから荒地へ』（中央公論新社、2016年）ほか。訳書にハサン・ブラーシム『死体展覧会』（白水社、2017年）、リン・マー『断絶』（白水社、2021年）、アルフィアン・サアット『マレー素描集』（書肆侃侃房、2021年）、オクテイヴィア・E・バトラー『血を分けた子ども』（河出書房新社、2022年）、C・パム・ジャン『その丘が黄金ならば』（早川書房、2022年）、ジーナ・アポストル『反乱者』（白水社、2022年）など。

野中 葉 (のなか よう)

慶應義塾大学総合政策学部准教授。インドネシア地域研究。著書に『インドネシアのムスリムファッション——なぜイスラームの女性たちのヴェールはカラフルになったのか』（福村出版、2015年）、「インドネシアのムスリム活動家たちの結集——世界的に稀な女性ウラマー会議開催」長沢栄治監修、イスラーム・ジェンダー・スタディーズ第2巻 鷹木恵子編『越境する社会運動』（明石書店、2020年）、「大学モスクの女性活動家の先駆者」「変身する女性と社会——近年のチャダル着用現象を事例に」同第5巻、岡真理・後藤絵美編『記憶と記録から見る女性たちの百年』（明石書店、2023年）など。

[編者]

岡 真理 (おか まり)

1960年生まれ。早稲田大学文学学術院教授。現代アラブ文学／パレスチナ問題。著書に『ガザに地下鉄が走る日』（みすず書房、2018年）、『アラブ 祈りとしての文学』（みすず書房、2008年／新装版2015年）、『棗椰子の木陰で 第三世界フェミニズムと文学の力』（青土社、2006年／新装版2020年）など。訳書に、ターハル・ベン＝ジェルーン『火によって』（仏語、以文社、2012年）ほか。中東現代文学研究会代表。科研基盤研究(A)「トランスナショナル時代の人間と「祖国」の関係性をめぐる人文学的、領域横断的研究」代表。